

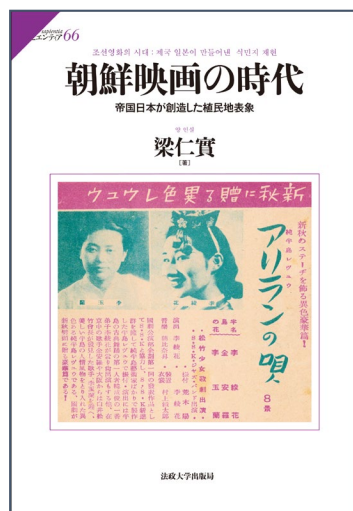
梁仁實 (やん・いんしる) 著

# 朝鮮映画の時代

帝国日本が創造した植民地表象

サピエンティア 66 / 四六判上製 306 頁

定価 3,630 円 (本体 3,300 円 + 税) / ISBN978-4-588-60366-2 C3321



## 銀幕から見た統治政策を問う

帝国日本では多くの映画人や作品、情報が往来し、内地でも朝鮮映画が上映され「朝鮮物」が作られた。こうした朝鮮映画や朝鮮物は誰に観られ、いかに考えられていたのか。戦時色が強まるにつれ、セリフは日本語に、スクリーンには「立派な皇国臣民」が登場するようになる。監督や俳優などの製作者、映画館経営者、観客の思いは、朝鮮人と日本人でいかに重なり、異なったのか。

著者：梁仁實 (やん いんしる / 양 인실)

韓国済州生まれ。立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士 (社会学)。現在、岩手大学人文社会科学部人間文化課程准教授。専門は在日コリアン表象、日韓の文化交流史。主な業績は「1930 年代京城と「女/性」表象——2010 年代以降の韓国映画を中心に」(岩手大学人文社会科学部紀要『アルテス リベラレス』2020 年)、「영화관객으로 재조일본인을 상상하기 일본어신문『부산일보』를 중심으로 『식민지 문화정치와 「경성일보」: 월경적 일본문학・문화론의 가능성을 묻다』역락 など。

### おもな目次

序章 帝国日本における朝鮮映画とは何か：朝鮮たらしめるもののゆくえ  
第1章 『大地は微笑む』における「朝鮮」とその周辺  
第2章 映画『春香伝』の越境と翻訳の不／可能性  
第3章 インターナショナルな朝鮮映画へ  
第4章 京城の映画館における植民者と被植民者の「交差」  
第5章 児童映画から「少国民」の物語へ  
第6章 在日朝鮮人の映画への接合：映画からの排除と参入  
終章 帝国日本で「朝鮮／映画」を観るということ  
あとがき  
索引

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学出版局 電話 03-5214-5540 / FAX 03-5214-5542

注	サピエンティア 66	朝鮮映画の時代	定価 3630 円	冊	書店名・番線
文	サピエンティア 67	朝鮮人特攻隊員の表象	定価 3520 円	冊	
書	ご芳名 ご連絡先				